

# 絵本遊び 読み聞かせ インストラクター

一般社団法人全国乳幼児遊び研究協会

講師：みやざき あゆみ

05

講義5：絵本の読み聞かせ方法



## 講義5：絵本の読み聞かせ方法

---



# 絵本の読み聞かせ方法

子ども（達）が楽しみにしている絵本の読み聞かせの時間。  
これは1対1でも多人数の時でも子どもの気持ちはかわりません。  
講義5では、絵本の読み聞かせ方法を学んでいきます。  
気を付けるポイント。  
それは、子どもの目線に立つとわかります。  
そのポイントを一つ一つ見て行きましょう。

# 子どもの姿

## 講義 5

---

### 0歳

視力もまだ弱いと言われている時期。

実際に読んでも反応があまりなかったりします。

でも、声は聞こえています。

言葉が通じない赤ちゃんの頃は、何もないと声掛けが少なくなってしまうがちですが、絵本の読み聞かせにより、色々な言葉を聞かせてあげることができます。

2～3ヶ月頃から徐々に笑顔が出始めるので、「いないいないばあ」という簡単なフレーズの絵本で笑ったりする事もあります。

言葉かけをするように、優しくゆっくりと読んであげましょう。

## 講義 5

---

### 1～2歳

この時期はストーリーの理解は難しい為、絵や言葉の楽しさを感じる時期です。

短く、内容も簡単な絵本をよんであげましょう。

1歳を過ぎると手足や体が動き始めます。

じっとして絵本を読む事が難しい時もありますよね。

絵本を読んであげても、どんどんページをめくってしまう事もあります。

そんな時は無理に全て読もうとせず、また順番に読もうとする必要はありません。

絵本に興味はありますが、体を動かすのが大好きなので、絵本を破ってしまう事もあります。

仕掛け絵本は特に壊しやすいので注意してください。

## 講義 5

---

### 2～3歳

この時期は短い、とても簡単なストーリーなら理解できるようになってきます。

ただ、繰り返しが必要で、何度も読む事によりお話しがわかってきます。

お気に入りの絵本と出会うと、何回も読みたがる事もあります。

読み手の気持ちとしては色々な絵本を読んであげたいところですが、繰り返し読む事により、ストーリーを理解していきますので、子どもの気持ちを尊重して、付き合ってくださいね。

その時間が子どもにとっては大切になります。

多人数の読み聞かせの場合は、順番で読む事を伝えていきましょう。

### 3～4歳

ストーリーの理解度が上がる為、興味が出た絵本は少し難しい場合でも読んであげましょう。

また、簡単な絵本もまだまだ楽しめたりします。

長い物、短い物・・・

色々な絵本を読んであげると、小さい頃はよくわかってなかった事が、今はわかるようになっていくという新たな発見もあり、子ども達も楽しむ事ができます。

## 5歳

文字にも興味でて、文字を読む事ができる子どもが多くなります。  
また、絵が少ない絵本の読み聞かせも聞けるようになります。  
ストーリーが複雑な絵本でも理解するようになります。

場面を想像しながら聞く為、想像力が養われます。

お昼寝前や就寝前に読む事で、落ち着いた気持ちになるのでお勧めです。

# 1. 絵本の持ち方

子どもが見やすい位置で絵本を持つ事が大切です。  
どんな読み方をしようと、子どもから見えなくては意味がありません。

なにより、絵本の“絵”が見えなくては楽しめませんよね。

「素話（すばなし）」という、何も見せずにお話しをする手法もありますが、絵本の読み聞かせでは、視覚からの情報も大切にしますので、必ず見えるように気を付けましょう。

その中で持ち方も重要です。

読み手の“手”で絵が隠れては元も子もないので、持つ手の位置に心がけましょう。

## 講義 5

---

<見やすい位置で絵本を持つポイント>

※大人数の場合

- ①絵本の下部、中央部分を持ちやすい方の手で持つ
- ②もう片方の手でページをめくる
- ③絵本の位置は自分の体の横（もしくは横斜め前）に出して、子ども達全員見える位置でキープする

## 講義 5

---

<見やすい位置で絵本を持つポイント>

※少人数の場合

-膝で抱っこ-

子どもを膝に乗せ、抱っこの形で読み聞かせをする場合は、子どもの前に絵本を広げて、絵本の読み聞かせを行う。

包まれている格好での読み聞かせの時間になる為、子どもは安心する。

※膝に乗せなくても可。その場合は、1～3人までならギリギリ可能

-寝ながらの読み聞かせ-

横になり手を伸ばして絵本を広げる。

見やすい位置で手を固定する。

手を滑らすと、顔に落ちてしまい危険なので、十分に注意して行う。

## 2. 絵本はなるべく動かさない

## 講義 5

---

子ども達は大人が思う以上に、絵に集中して聞いてくれます。  
その際、絵本がゆらゆら動くと、船酔いのような状態になったり、集中力が切れてしまう事も。

その為、読み効かせの際は、絵本がゆらゆらしないようにしっかり持ちましょう。

ただ、登場人物の動きに合わせて動かすような、目的がある場合は「絶対にNG」というわけではありません。

よく読む絵本を「今日は劇のように」と、いつもと違う読み方をしてみる為に絵本を動かす目的があればOKです。

その時も、激しく動かし過ぎてしまうと絵を見て楽しんでいる子ども達は動きに付いていけなくなってしまう、集中が途切れてしまいます。

動かす場合は、子ども達の日線に合わせて適度に動かしていきましょう。

## 3. 余裕をもつて読めるように練習する

## 講義 5

---

絵本の読み聞かせは、子ども（達）の反応を見ながら読む事が大切です。  
その為には余裕を持って読めるようにしておく事が重要です。  
読み手のペースで次々とめくってしまうと、子ども（達）は話についていけません。

子ども（達）の反応を見ながら、ペースを合わせて読み進めましょう。

読み手が調整できるスピードは2つです。

- ①文を読むスピード
- ②ページをめくるスピード

絵本の内容によっても読むスピードやめくるスピードがタイミングにより違います。  
子ども（達）の表情や目線等の反応を見ながら調整するには「余裕」が必要です。

しっかり絵本を読み込んで、余裕をもって読み聞かせができるようにしておきましょう。

## 4. 抑揚（よくよう）について

## 講義 5

---

絵本の読み聞かせの抑揚について、様々な意見があります。  
抑揚をつけすぎてしまうと、その時間は楽しめますが、物語が心に残りにくいので抑揚は付けないように読み聞かせをする事を推奨される様々な情報もあります。

ただ現在は、抑揚はつけてもOKとする考え方が増えています。

あまりに読み手がオーバーリアクション過ぎてしまうのは、絵本を見るべきか読み手を見るべきかわからなくなってしまいますので、絵本の邪魔にならない程度に行いましょう。

抑揚は勿論、声を少し変えるだけでも印象が変わります。

あくまで主役は“絵本”です。

絵本の世界は壊さずに、楽しく行いましょう。

## 5. スピードや声の大きさ

## 講義 5

---

絵本の読み聞かせの速さについては、基本的にはゆっくりが基本となります。  
しっかりとした声をお腹から出し、はっきりとした言葉で行います。

多人数の場合は、1番後ろの子どもの更に後ろ辺りまで聞こえる声で、怒鳴らずにお腹から声を出して読みます。

怖い声ではなく、優しい声で。

ただ、お話しの内容によっては、少し低い声や、小さな声、途中で早口になってもOKです。  
目的があればよいのです。

注意すべき点は、「意識をしないと気付かないうちに速くなってしまおう。」  
という事です。  
緊張していると余計です。

ゆっくりと読んでいきましょう。

## 6. ページのめくり方

## 講義 5

---

ページのめくり方！！？  
と思った方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

でも結構重要なのが、この“ページのめくり方”です。

基本的には、絵本の文章が終わってから「1, 2」とゆっくり心の中で数えてからめくると言われています。

子ども達は、絵本の“絵”を見て、絵本の世界に入り込み、想像力を働かせています。せつかく想像力を働かせているのに、パツパ、パツパとめくったらどうでしょうか？想像力を働かせる時間がありますでしょうか？

答えは“NO”ですよね。

めくり方もゆっくりとめくってください。  
ただ、「ここはパツとめくった方が雰囲気であるな～」という場合は絵本を傷めない程度に素早くめくるのも良いと思います。

# 7. 表情

## 講義 5

---

読み聞かせの場に入る時は、必ず笑顔で入りましょう。  
自己紹介がある場合は、終始笑顔を忘れずに。

絵本によっては暗ーい感じで読む事も、本によっては面白いと思います。(ex.お化けの本等)

ただそれは、読み聞かせが始まってからの話しです。

はじめはニコニコ笑顔で、子ども達のお顔を一人一人見ながら微笑んでください。

子ども達も安心します(^ ^)

読み聞かせ中も、子ども達の一人一人の表情を見ながら基本的には笑顔で行います。

始めは緊張してしまう事もあり、なかなか見る事が難しいかもしれません。

その時は、子ども達の顔や目ではなく、おでこ辺りや、その先を見ても大丈夫です。

慣れてきたら、子ども達の表情や様子を見ながら行くと、読み手のあなたも楽しかったり、空間に一体感を感じたりもします。

あまり表情の変化がない子どもも沢山いますが、それはつまらないわけではなく、絵本の世界に入っていたり、心で楽しんでいる場合が多いのでご安心ください。

無表情で聞いていたお友達が、「もう一回読んで！」と本を持ってくる事は多々ありましたよ。

# まとめ



## 講義 5

---

ポイントは掴めたでしょうか？  
絵本の読み聞かせ方法は、基本的には難しい事はありません。

だからこそ難しかったりもしますよね。  
大人だって緊張しますし、間違えます。

子どものまえだからといって、人前で何かをするのはドキドキします。  
だから笑顔もカチンコチンになったりもします。  
みんな同じです。

ベテラン保育士さんだって新人さんの時がありましたし、きっと今でも天皇陛下の前で読み聞かせをする事になれば緊張してひきつってしまおうと思います(笑)

はじめは誰でもそうなので、緊張してしまったり上手く出来ない場合でも、気負わずにリラックスして行ってください。  
そして、お家で練習してください。  
練習は裏切りませんので。  
とにかく自分が楽しめるように！！

*Thank You*



## 講義 5

---

講義お疲れ様でした。

読み聞かせのポイントを脳で理解しておくだけでも安心感へと繋がりますので、なんとなく知っていた方にとっても大切な講義だったかと思います。

そこで今回の課題です。

### 【課題】

緊張で笑顔が作れない場合、あなたはどうしますか？

笑顔の作り方を調べて方法を記載して頂いてもOKです。  
いつも行っている事でもOKです。

笑う門には福来る！！  
笑う事は大切ですよ♪

笑顔の改善方法、楽しみにしています！